

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-198283

(43) 公開日 平成9年(1997)7月31日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	片内整理番号	P I	技術表示箇所
G 0 6 F 12/00	5 0 1		G 0 6 F 12/00	5 0 1 B
				5 0 1 H
	5 3 1			5 3 1 D

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平8-8962

(22) 出願日 平成8年(1996)1月23日

(71) 出願人 000005108

株式会社日立製作所

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地

(71) 出願人 000233055

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社

神奈川県横浜市中区尾上町6丁目81番地

(72) 発明者 布施 敏

神奈川県横浜市中区尾上町六丁目81番地

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社内

(74) 代理人 弁理士 小川 勝男

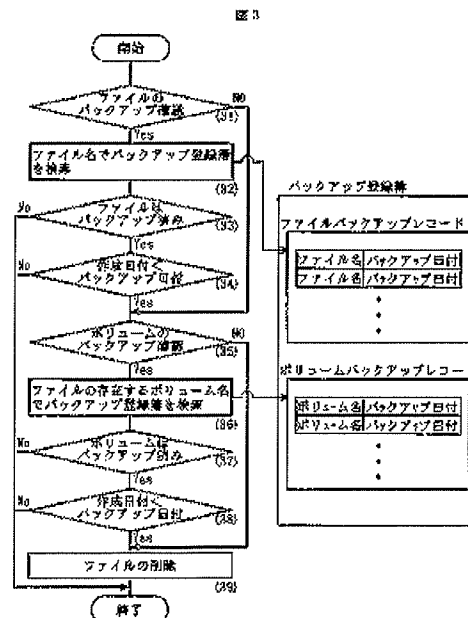
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 記録媒体ボリューム上のファイル削除方法

(57) 【要約】

【課題】記録媒体ボリューム上のファイルの削除方法において、既にバックアップ済みのファイルを利用者がバックアップ登録簿を確認することなく、自動的にバックアップ登録簿を検索することにより、ファイルの作成日以降にバックアップしたファイルのみを削除する。

【解決手段】記録媒体ボリューム上のファイルを削除するシステムにおいて、自動的に削除対象ファイルが既にバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイルの存在する記録媒体ボリュームがバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイル、または削除対象ファイルの存在する記録媒体ボリュームのバックアップ日付がファイルの作成日以降か否か確認してから削除する手段と、ファイル、並びにボリュームのバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿を使用して、ファイルを削除する方式を具備する構成。



(2)

特開平9-198283

1

2

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】記録媒体ボリューム上のファイルを削除するシステムにおいて、自動的に削除対象ファイルが既にバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイルのバックアップ日付が削除対象ファイルの作成日付以降か否か確認してから削除する手段と、ファイル、並びにボリュームのバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿を使用して、ファイルを削除する方法。

【請求項2】記録媒体ボリューム上のファイルを削除するシステムにおいて、自動的に削除対象ファイルの存在する記録媒体ボリュームが既にバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイルの存在する記録媒体ボリュームのバックアップ日付が削除対象ファイルの作成日付以降か否か確認してから削除する手段と、ファイル、並びにボリュームのバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿を使用して、ファイルを削除する方法。

【請求項3】記録媒体ボリューム上のファイルを削除するシステムにおいて、請求項1と請求項2を兼ね備えたファイルの削除手段と、ファイル、並びにボリュームのバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿を使用して、ファイルを削除する方法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は記録媒体ボリューム上のファイル削除方法に係り、既にバックアップ済みのファイルを利用者がバックアップ登録簿で確認することなく、自動的にファイルの作成日付以降にバックアップしたファイルを削除する方法に関する。

【0002】

【従来の技術】ファイル、並びにボリュームのバックアップ実行時に、そのバックアップ情報はバックアップ登録簿で管理しておき、既にバックアップ済みのファイルを削除する時は、このバックアップ登録簿を参照して、バックアップ済みを確認してから削除している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上述の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法では、利用者がファイルを削除する度にバックアップ登録簿を参照して、削除対象ファイルのバックアップを確認していた。

【0004】このため、利用者が保有するファイルが増大すると、削除対象となる全ファイルに対してバックアップ登録簿を参照しなければならず、ファイル削除に要する時間も増大するという問題がある。

【0005】本発明の目的は、記録媒体ボリューム上のファイル削除時に、自動的にバックアップ登録簿を検索してバックアップ済みのファイルのみを削除するものである。また、削除対象ファイルのバックアップ登録簿の検索はファイル名以外にボリューム名でも検索でき、削

除対象ファイルの存在するボリュームがバックアップ済みか否かを自動的に判定して、ボリュームバックアップ済みのファイルのみを削除することも可能である。更に、バックアップ登録簿でファイル、またはボリュームのバックアップ日付を自動的に検索して、バックアップ日付がファイルの作成日付以降のファイルのみを削除する。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法では、ファイル、並びにボリュームのバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿を使用して、自動的に削除対象ファイルが既にバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイルの存在する記録媒体ボリュームがバックアップ済みか否か確認してから削除する手段と、自動的に削除対象ファイル、または削除対象ファイルの存在するボリュームのバックアップ日付がファイルの作成日付以降か否か確認してから削除する手段を備えた方法を実現する。

【0007】本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法においては、ファイル削除時に削除対象ファイルが自動的にバックアップ登録簿で検索され、ファイルがバックアップ済みか否か検証される。また、バックアップ登録簿検索はファイル名の他にボリューム名でも検索され、削除対象ファイルが存在する記録媒体ボリュームがバックアップ済みか否かも検証される。更に、バックアップ登録簿の検索時にファイル、またはボリュームのバックアップ日付も検索し、バックアップ日付がファイルの作成日付以降か否かも検証される。

【0008】このようにして、検索された削除対象ファイルの中からファイルの作成日付以降にバックアップしたファイルのみが削除される。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法を図面に基づき説明する。

【0010】図1は、本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法における記録媒体ボリュームとして磁気ディスクボリュームを用い、磁気ディスクボリューム上のファイルを削除しようとする例であり、その基本構成を示す図である。同図中、1は削除対象ファイルの存在する磁気ディスクボリューム、2は電子計算機システムの中央処理装置（CPU）、3はファイル、並びにボリュームをバックアップした時の管理情報を登録するバックアップ登録簿である。

【0011】図2は、本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法で使用するバックアップ登録簿の一例を示す図である。同図中、21はバックアップ登録簿の管理情報テーブル図であり、ファイル、並びにボリュームのバックアップ実行時にバックアップ管理情報を記録する。バックアップ登録簿にはファイルバックアップレ

(3)

特開平9-198283

3

コード（ファイル名、バックアップ日付）とボリュームバックアップレコード（ボリューム名、バックアップ日付）がある。

【0012】図3は、本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法の一実施例の詳細を示すフローチャートである。同図中、ステップ31は削除対象ファイルのバックアップを確認するか否かを判定する。ステップ32は削除対象ファイルがバックアップ済みか否かをバックアップ登録簿で検索する。ステップ33は削除対象ファイルがバックアップ済みか否かを判定する。ステップ34は削除対象ファイルのバックアップ日付がファイルの作成日付以降か否かを判定する。ステップ33、34により、削除対象ファイルを削除するか否かを決定する。ステップ35は削除対象ファイルの存在するボリュームのバックアップを確認するか否かを判定する。ステップ36は削除対象ファイルの存在するボリュームがバックアップ済みか否かをバックアップ登録簿で検索する。ステップ37は削除対象ファイルの存在するボリュームがバックアップ済みか否かを判定する。ステップ38は削除対象ファイルの存在するボリュームのバックアップ日付がファイルの作成日付以降か否かを判定する。ステップ37、38により、削除対象ファイルを削除するか否かを決定する。ステップ39により、削除対象ファイルを削除する。

【0013】以上により、記録媒体ボリューム上のファイルを利用者がバックアップ登録簿でバックアップ済み\*

4

か否かを確認することなく、自動的にファイルの作成日付以降にバックアップしたファイルのみ削除することができる。

【0014】

【発明の効果】本発明によれば、記録媒体ボリューム上のファイル削除時において、自動的にバックアップ登録簿を検索して、削除対象ファイルが既にファイル、またはボリューム単位でバックアップ済みであり、そのバックアップ日付がファイルの作成日付以降ならば、削除対象ファイルを削除する。上記の条件を満たしていない時は、削除対象ファイルの削除は行わないため、不当なファイル削除を防止する効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法における記録媒体ボリュームとして磁気ディスクボリュームを用いた場合の一実施例の基本構成を示す図である。

【図2】本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法においてバックアップ管理情報を記録するバックアップ登録簿の一実施例の機能構成を示す図である。

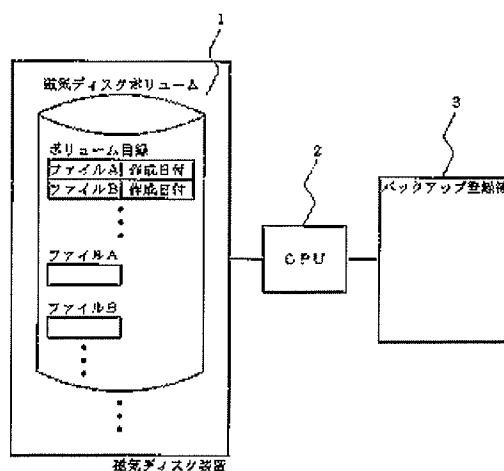
【図3】本発明の記録媒体ボリューム上のファイル削除方法の一実施例の詳細を示すフローチャートである。

【符号の説明】

1…磁気ディスク装置、2…中央処理装置、3…バックアップ登録簿。

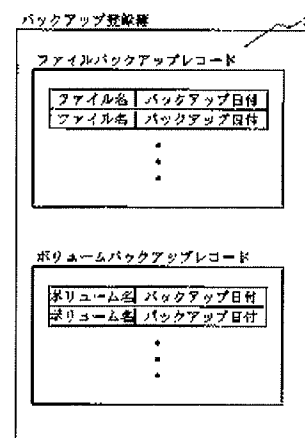
【図1】

図1



【図2】

図2

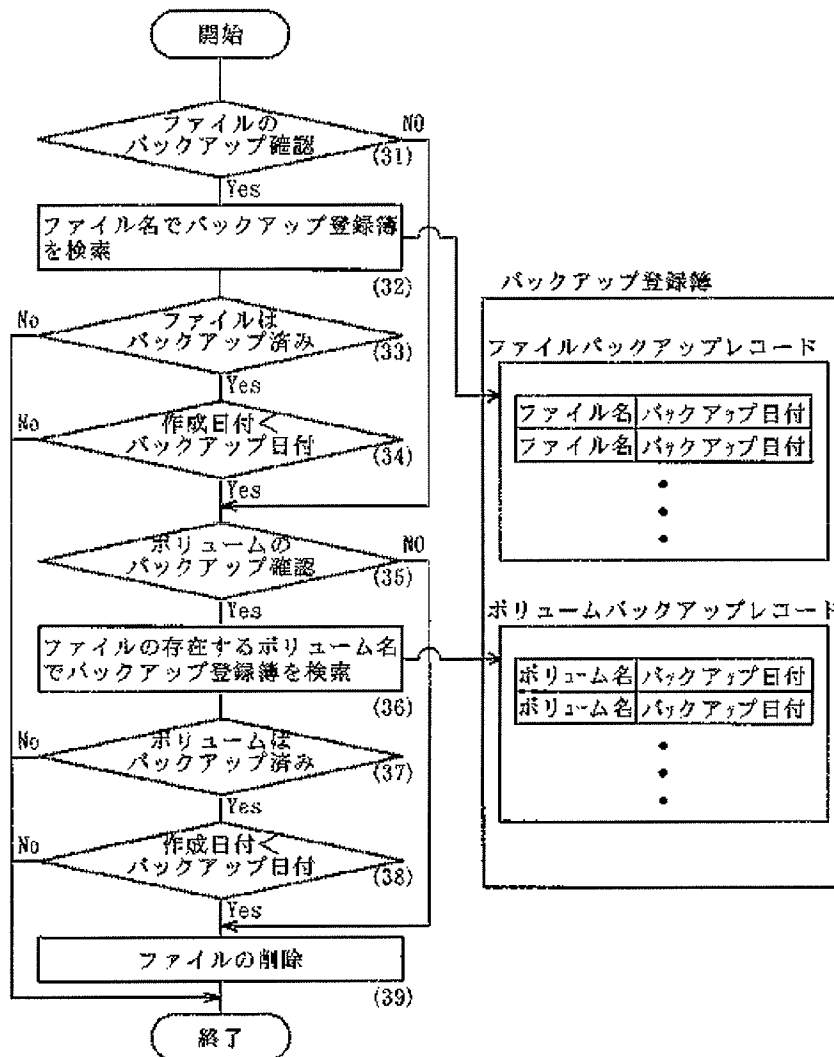


(4)

特開平9-198283

【図3】

図3



フロントページの続き

(72)発明者 新村 義章

 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地 株  
 式会社日立製作所ソフトウェア開発本部内